

47 狛江市の見晴らし—狛江団地の給水塔

まちづくり



受賞者：なし

推薦者：平田 芳夫 さん

【推薦コメント】

団地の正式名称は「都営狛江アパート」です。東西約300m、南北約200mの敷地に、鉄筋5階建ての住宅が50棟も立ち並んでいます。総戸数1746。一戸あたり3人家族なら、住民5000人ですよ。

この巨大なコミュニティが完成したのは1968年（昭和43年）です。お隣のマンモス団地「多摩川住宅」も同年に完成しています。

当時、日本は高度経済成長の真っ只なか。首都東京は人口の急増で深刻な住宅難でした。狛江団地は、パパとママと子供たちの「夢の新居」として誕生したんです。狛江も住宅地として整備されていきます。

それから40年、今は高齢の方々が増えました。同時にコミュニティも成熟してきました。エレベーターの設置やバリアフリーなど、住民参加の新しい取り組みが進んでいます。狛江団地40年の歴史は、狛江発展の歴史でもあり、さらには、東京また日本の21世紀にぴったりと重なっています。

その狛江団地のシンボルが給水塔です。団地の真ん中、中央公園の一角にあり、高く静かに空に向かっています。その天辺からは何が見えるんだろう。登ってみたい魅力の風景です。

【講評】

日本が高度経済成長を遂げた時期は1955年から1973年の18年間といわれ、これに呼応するように都心部の人口は急増していきました。人口急増対策の一環として狛江市には「都営狛江アパート」や「多摩川住宅」が建設されました。「都営狛江アパート」中央には大きな「藤塚第三公園」があり、その中に給水塔は設置され、団地のシンボルとなっています。住民以外の市民にとっても、いつも見かけるこの給水塔には、時代を振り返らせる不思議な力が宿っている気がします。数知れぬ家族が見上げ、お返しに暮らしを守ってきた給水塔は、これからもずっと守り神として立ち続けることでしょう。